

仰木の里学区 自主防災会だより

2024年
7月号
VOL.10

ご挨拶



仰木の里学区自主防災会 会長 津原 士郎

仰木の里学区のみなさん、いつも自主防災活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。本年4月より、新たに「まちづくり協議会」が発足しました。自主防災会もまちづくり協議会 防災・防犯・安全部に所属し、災害に負けないまちづくりを共に推進していきます。

令和6年度本部役員・ブロック本部役員

会長	津原 士郎 (中央)	副会長	松本 清 (中央)	新道 正宏 (東7)
事務局	事務局長: 松田 八郎 (衣川台)		事務局次長: 山崎 悟 (レイクウエスト)	
	事務局員	高橋アキ枝 (ヴェルディール)	杉田さと子 (山の下)	稲垣 司郎 (山の下)
会計	松本 利寛 (中央)	会計監査	織戸 英信 (衣川台)	松本 進吾 (東5)
要支援者担当役員	社会福祉協議会会長: 松村 裕雄 (東山)		民生・児童委員協議会会長: 安井 稔浩 (仰木台)	
顧問	兵頭 諦 (中央)	田中 隆 (中央)		

	里ブロック			里東ブロック		
ブロック長	正 松本 清 (中央)	副		正 新道 正宏 (東7)	副	
事務局員	正	副		正	副	
情報連絡部長	正 前田 朗 (里西)	副 佐々木 喜久子 (里北)		正 児玉 靖治 (東2)	副	
消火部長	正 五十嵐 源三 (里西)	副		正 宇佐美 晃 (衣川台)	副	
救出救護部長	正 牧 宏久 (中央)	副 吉田 忠弘 (里北)		正 喜多 茂 (東2)	副	
給食給水部長	正 中橋 真弓 (中央)	副		正 松本 利恵 (東5)	副 青井 純子 (東6)	

※ ブロック本部役員として防災活動に力を貸して頂ける方を募集しています。
ご協力頂ける方は、会長津原(090-4649-0401)、事務局松田(080-2675-5185)まで連絡をお願いします。

令和6年度行事予定

	項目	対象	開催	内容	備考
研修会	防災部長研修会	防災部長 副部長	年2回	自主防災部活動のすすめ方	自主防災会本部
	本部役員研修会	本部・ブロック役員 防災士	年2回	地区防災計画推進に向けた 研修の実施	自主防災会本部
講演会	防災講演会	全住民	8月	仰木の里の被災想定を理解と 共助意識の高揚をはかる	講師未定
発災時体制 確立	学区発災時体制 調整会議	支所・小中高校 自治連・自主防	6月	学区関係機関・団体による 避難所開設手順の確認	自主防災会 自治連合会
防災訓練	自主防災部訓練	各自主防災部住民	各防災部 年1回	訓練計画の立案・実施	消防署・分団 自主防災会本部 防災士
	避難所運営訓練	仰木の里東小学校	9月	発災時体制に係る 関係者・役員の訓練実施	
	学区総合防災訓練	里ブロック全住民	11月10日(日)	里ブロックの総合的訓練実施	
児童 防災教育	防災教室	幼・保育園児 小・中学生	各1回	児童防災知識の向上	自主防災会
	まち歩き ウォッチング	小学生	2月	防災・防犯体験行動の実施	自治連・自主防災会 各種団体
	防災 ふれあいイベント	子ども・高齢者	四半期毎	ふれあいの場を通じて 共助意識の高揚をはかる	自主防災会
広報活動	広報紙の発行	全住民	年2回	事業計画の実施状況の報告 住民の意見・要望の反映等	本部事務局
資機材管理	備品・備蓄品の拡充 及び使用方法の研修	学区内	通年	発電機・無線機等取扱い研修の実施 備蓄品・防災倉庫の増設	自主防災会



ひなん
「避難」って
何すれば
いいの？

小中学校や公民館に行くことだけが避難ではありません。
「避難」とは「難」を「避」けること。
下の4つの行動があります。



行政が指定した避難場所
への立退き避難

自ら携行するもの
・マスク
・消毒液
・体温計
・スリッパ 等

小・中学校
公民館

安全な親戚・知人宅
への立退き避難

普段から災害時に避難
することを相談して
おきましょう。
※ハザードマップで安全か
どうかを確認しましょう。



普段から
どう行動するか
決めておき
ましょう

安全なホテル・旅館
への立退き避難

通常の宿泊料が必要
です。事前に予約・
確認しましょう。
※ハザードマップで安全か
どうかを確認しましょう。

ホテル
旅館

屋内安全確保

ハザードマップで以下の
「3つの条件」を確認し
自宅にいても大丈夫かを
確認することが必要です。

--- 想定最大浸水深

※土砂災害の危険がある
区域では立退き避難が
原則です。



「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
(入っていると…)



流速が速いため、
木造家屋は倒壊する
おそれがあります

地面が削られ家屋は
建物ごと崩落する
おそれがあります

② 浸水深より居室は高い

3・4階	5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)
2階	3m~5m未満 (2階床上~軒下浸水)
1階	0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

③ 水がひくまで我慢でき、
水・食糧などの備えが十分
(十分じゃないと…)
水、食糧、薬等の確保が困難になる
ほか、電気、ガス、水道、トイレ等の
使用ができなくなるおそれがあります



※①家屋倒壊等氾濫想定区域や②水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住いの市町村へお問い合わせください。

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分に確認して下さい。

